

産業の枠組み自体が変わる中で 変化を捉え情報を得るには 広い視野と人脈が不可欠です

「未来予測レポート」という独自の将来予測に基づいて
企業の中長期戦略立案を支援している株式会社アクアビット。
これからの社会はどう変わっていくのか、
その中でFPには何が求められるのか――。
レポートの著者で代表取締役の田中栄氏にお話を伺った。

社会が変われば ビジネスも変わる

――ビジネスにおいて、なぜ「未来予測」が必要なのでしょう。
田中 それは、過去の延長線上に未来はないからです。
15年前と比べると社会は大きく変わりました。15年後の社会は、今とはまったく違う姿になっているでしょう。そして、社会が変われば、求められるビジネスもまた変わります。
どの会社も中長期戦略を考えていると思いますが、その多くは、来年は105%の成長、再来年は110%の成長というように、今をベースに数年先を考える「フォーキャスト」の戦略ではないでしょうか。
反対に、新しい社会の中で自分の会社はどうありたいのか。それを実現するために何をすべきかを考えるのが「バックキャスト」の戦略です。
「フォーキャスト」と「バック

キャスト」で考えた戦略は、大抵一致しません。それが中長期戦略を考え直すきっかけとなり、新しいチャンスやリスクの気付きになるのです。
「バックキャスト」で戦略を立案するには、その前提として新しい社会を具体的に予測する必要があると思います。そのために「未来予測」が求められるのです。

「クラウドロニクス」という 新しい産業形態が始まる

――15年後の社会を考えると、えでのキーワードは何でしょうか。
田中 2014年9月にリリースした「未来予測レポート2015―2030」では、3つのメガトレンドを柱に、社会の大きな構造の変化を描いています。
ひとつ目は「サステイナビリティ」です。一般には「持続可能性」と訳されますが、未来予測では「足りない」がビジネスの新しい前提になると捉えています。

田中栄

株式会社アクアビット代表取締役
チーフ・ビジネスプランナー

